

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援BAMBOOHAT KIDS深谷駅前教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日		～ 2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用者様からの満足度が高く、お子様が通所を楽しみにしてくれている様子が多くみられること お子様の課題やご家族の要望に沿った児童発達支援計画が作成され、それに基づき支援を行っていること	集団活動の時間ができたことにより、定期的にお子様の課題、伸ばしたい行動への支援をふまえたイベントを企画し開催しています。お子様、ご家族のご要望や課題について、送迎時や面談時等にできる限り詳細にお話を伺い、情報を共有し、お子様一人ひとりに合わせた支援計画を立て実施しています。	楽しみながら成長に繋がる集団活動やイベントを実施していきながら、実施後にはお子様の様子や成果、課題を職員間で振り返り、次回の支援内容や児童発達支援計画に反映させていきます。 また、送迎時や面談等で得られたご家族の要望や困りごとについてお話を聞くだけでなく、経過を追っていくことで支援計画の見直しや支援方法の改善につなげ、お子様一人ひとりにより適した支援計画を作成し実行してまいります。
2	利用時間の半分程度の時間、個別支援を実施している。 個別支援での経験を集団活動へ生かしていく段階的な支援を行っていること	お子様の課題や目標によって個別と集団の時間配分や一緒に活動する人数なども変えています。集団活動時に必要となるスキルについて、個別での取り組みのほか、2、3人のお友達と一緒に、あるいは数人の指導員と一緒に取り組むといった、集団活動の一手手前の環境を作り支援しています。そのような取り組みの後に、さらに人数の多い集団での活動に取り組むことで成功経験を積み重ねやすくしています。	引き続き、お子様の課題や目標によりスケジュールを組み、個別で練習したことをすぐに実践できる活動の流れやプログラムを構築し支援を行っていきます。個別支援でのお子さんの状況から、適切な手助けや成功しやすい環境の工夫を行いながら、段階的な支援を組み立て取り組んでいきます。
3	個別支援、集団支援ともに、支援中のお子様の様子を見学できる機会、対面にてご相談を受ける機会を設けていること	毎月保護者様に支援見学やご相談のご希望を伺う仕組みを作り、見学や相談に来所していただいています。見学時には実際の様子を見ていただきながら支援内容についてお話しています。ご相談については、送迎時にはお話できなかったお悩みや困りごとを、時間を作りお伺いすることでより詳細に聞き取りをしながら具体的なご提案を行うようにしています。	見学や対面相談を通して把握したお子様の家庭での様子や保護者様の困りごとを職員間で共有・検討し、支援目標や支援方法の見直しに活用していきます。 また、保護者様が安心して相談できる関係づくりをさらに深めるため、見学・相談の機会を継続的に確保できるような仕組みづくりを行い、相談内容に応じた具体的な助言や支援方針の共有を行いながら家庭での関わりと事業所での支援がより効果的につながるよう取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様へのペアレントトレーニングが十分に行われていない(全利用者にはいきわたっていない)。 また、保護者様同士の交流が十分ではない。	情報共有、支援の提案を受ける機会として支援見学やご相談の時間を有効に使っていただいている保護者様もいるが一部であり、全利用者にはメリットが伝わっていない。 法人内事業所合同でのイベントは実施されたが、保護者同士の交流が深められるような会の開催は不足している。	保護者様へ困りごとやご相談の有無についてこちらから問いかけていながら、送迎時以外の時間を作ってお話しするメリットを伝え、問題解決、よりよい関わり方のための情報提供をどの保護者様にも定期的に行えるようにしていきます。 保護者同士、ご家族を対象とした交流・学びの機会について、ニーズをふまえながら企画、実施を検討していきます。
2	事業所の特色、取り組みや支援に対する考え方、工夫について、保護者様やこれから利用を考えている方へ十分に伝えられていない。	ホームページ、SNS、毎月発行しているニュースレターを通して事業所の取り組みを伝えているが、保護者様やご利用を検討されている方とのやり取りの中で内容が伝わっていないと感じることがあり、結果として発信についての周知が不足していると考えます。	保護者様に対してはお子さんの様子をお伝えしている連絡帳アプリを活用することで、ブログ、SNS等の発信についてお知らせしていきます。こちらから発信する内容について、よりわかりやすく伝えるための工夫を行いながら継続的な情報発信を行ってまいります。

3	<p>支援に関する振り返りやプログラムの見直し、改善内容について、全スタッフで共有しながら活かす仕組みが十分に整っておらず、支援の工夫や意図がチームとして蓄積されにくい面がある。</p>	<p>支援後の振り返りが、次回の支援方針や改善点として整理・明確化されにくく、記録も口頭での補足を必要とする内容になっていることが多いため、支援のねらいや工夫点が全スタッフに共有されにくい状況が生じている。</p>	<p>支援後の振り返りを「できたこと・難しかったこと・次回のねらいと工夫」の観点で整理する様式にする等、誰が見ても支援の意図と改善点に分かる記録にしていきます。 また、短時間のケース共有の機会を設け、個々の支援の工夫をチーム全体で共有・蓄積し、継続的な支援の質の向上につなげていきます。</p>
---	---	---	---